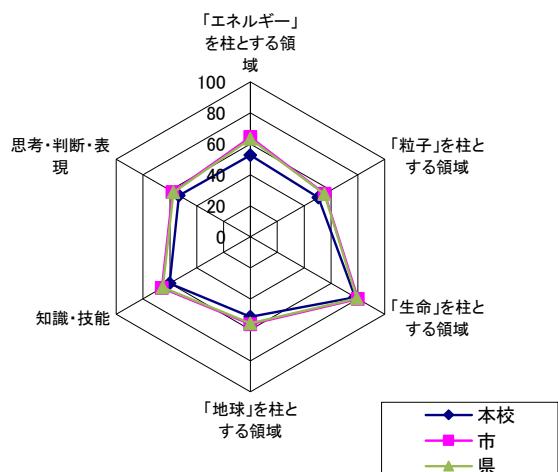


# 宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	50.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	51.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	60.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	53.3	57.9	57.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市や県の平均と比べて低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●直列つなぎを理解しているか答える設問では、正答率が50.4%と県と比べて16.9ポイント下回っている。</li> <li>●電流が流れない回路を、電流が流れるように改善できる方法を選択する設問では、正答率が52.1%と県と比べて12.6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーを柱とする領域では、とくに「電流のはたらき」の単元における設問に課題が見られた。回路のつなぎ方の名称や回路のつなぎ方の違い、電流の大きさや向きの違いなど、基本的な知識の定着に課題が見られる。実験や観察を通して理解を深めるとともに、活動に併せて知識の定着を図れるよう声掛けや活動の工夫を図っていく。また、身の回りの事象との関連も図ることで、より基礎的・基本的な知識の定着を図れるようにしていく。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均正答率と比べて4.5ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○閉じ込めた空気と水の性質の違いについての理解をみる設問では、正答率が58.7%で、県の平均と比べると1.6ポイント上回った。</li> <li>●水を冷やしたときの温度変化について予想をもとに、結果を考える設問では、48.8%と県の平均正答率を8.1ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粒子を柱とする領域では、日常生活における事象との繋がりを深めるために、実験の内容と関連付けを図るようにする。また、実験や観察をした際には、考察や結果の確認をするだけでなく、グループで話し合う時間を取り、考えを深めたり、自分の言葉でまとめたりして、書く力や考えをまとめる力を高めていく。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、78%と県の平均正答率と比べて2.1ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オオカマキリとノサマガエルの越冬について調べた結果をもとに考える設問では、91.7%と県の平均と比べると4.4ポイント上回っている。</li> <li>●骨と骨の繋ぎ目の名称を答える設問では、82.6%と県の平均より5.6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を柱とする領域では、生き物に関する設問で正答率が高く、知識の定着が見られており、日常生活の中で生き物に関心をもっている児童が多いことがうかがえる。しかし、人の体についての知識においては課題が見られる。授業の中で、体の名称などを学習する際には、実際に自分の体で確認したり児童どうしで伝え合ったりして理解に繋げたい。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は51.6%で、県の平均と比べて4.8ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の結果から水たまりの出来にくい地面を選択する設問では、正答率は44.6%で、県の正答率を3.1ポイント上回っている。</li> <li>●水が水蒸気に変わって空気中に出ていく現象の名称について答える設問では、正答率が43.8%と県の正答率を17.3ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球を柱とする領域では、読み取ったことや考えたことを記述して答える問題の正答率が比較的高い設問が見られる。しかし、短文での回答や選択などの知識を必要とする問題では、正答率が低くなっている。知識としてはもっているが、設問の正答と結びついてない可能性がある。実験や観察を通して理解を深めるとともに、活動に併せて知識の定着を図れるよう声掛けや活動の工夫を図ていきたい。</li> </ul>